

Access 交通アクセス



[電車・バスでのアクセス]

- JR・京急「鶴見駅」から「東部病院行」バスで約10分
- JR・京急「川崎駅」から「東部病院行」バスで約10分
- JR「尻手駅」から徒歩で約15分

[お車でのアクセス]

- 横浜方面:「浜川崎IC」または「汐入IC」出口から約15分
- 東京方面:「岸谷生麦IC」または「子安IC」出口から約15分

東部がんセンターの情報はホームページでもご覧いただけます。

<https://www.tobu.saiseikai.or.jp/cancer-center01/>



社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL
医療 密着 財団 済生会 横浜市 東部 病院

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉 3-6-1
TEL: 045-576-3000 (代表) FAX: 045-576-3525
E-mail: tobu@tobu.saiseikai.or.jp

第3版 2021年9月発行

Our Initiatives

東部がんセンターのがんへの取り組み

がんセンター

がんセンターとは、がん患者さんに最善の治療を提供する目的で開催している検討会のことです。

緊急がんセンターは原発不明がんや重複がんなど、診療科の垣根を越えた検討が必要な場合に開催し、定例がんセンターは、がん診療に関わる全ての医療スタッフを対象に、知識と情報の共有を目的とした事例検討・講義を行っています。



骨転移・がんロコモリエゾンカンファレンス

骨転移の症状および合併症である疼痛、病的骨折、脊髄麻痺などはADLの低下や予後の悪化の恐れがあるため、早期診断・早期治療、その後の整形外科的マネジメントが重要です。

骨転移がんの患者さんを支えるために、整形外科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科など複数の診療科で、診断・治療方針を検討し情報共有することで、緊急手術の減少、QOLの維持・向上を実現します。

ロボット手術センター

ロボット支援手術は緻密で複雑な手術操作が可能で、難しい手術をより安全に実施することができます。また、腹腔鏡と同じ内視鏡手術のため、患者さんの身体にやさしい治療です。

当院では2012年から手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使用した手術を累計およそ800件実施しており、胃がん、前立腺がん、腎臓がん、膀胱がん、子宮体がんの手術が受けられます。
(2020年度直腸がん・肺がん開始予定)



ロボット手術センター
公式キャラクター
「ロボてくん」

臓器別クラスターカンファレンス

ひとりの患者さんが「がん」になっても、その人にとって適切な治療が手術なのか、内視鏡治療なのか、抗がん剤治療なのか、それぞれ事情は異なります。

臓器別クラスターカンファレンスではそれぞれの臓器ごとに、内科、外科などが患者さん一人ひとりに対して最適な治療を協議で決定していきます。

決して初診医の個人的な考えでは治療方針は決まりません。病院としてのがん診療の質を担保するものです。

口腔ケア

口腔は食事をするための大切な器官です。がん治療の副作用が口腔粘膜炎(口内炎)となって現れる事がありますが、口の中の乾燥や疼痛があると食事の摂取が困難となりQOLの低下を招きます。しっかりと口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つ事が重要です。

口腔の機能を維持するための口腔ケアは、がん治療の重要な支持療法です。東部がんセンターでは、地域の歯科クリニックと連携体制で行っています。

About Us 「地域がん診療連携拠点病院」として

地域と東部がんセンター

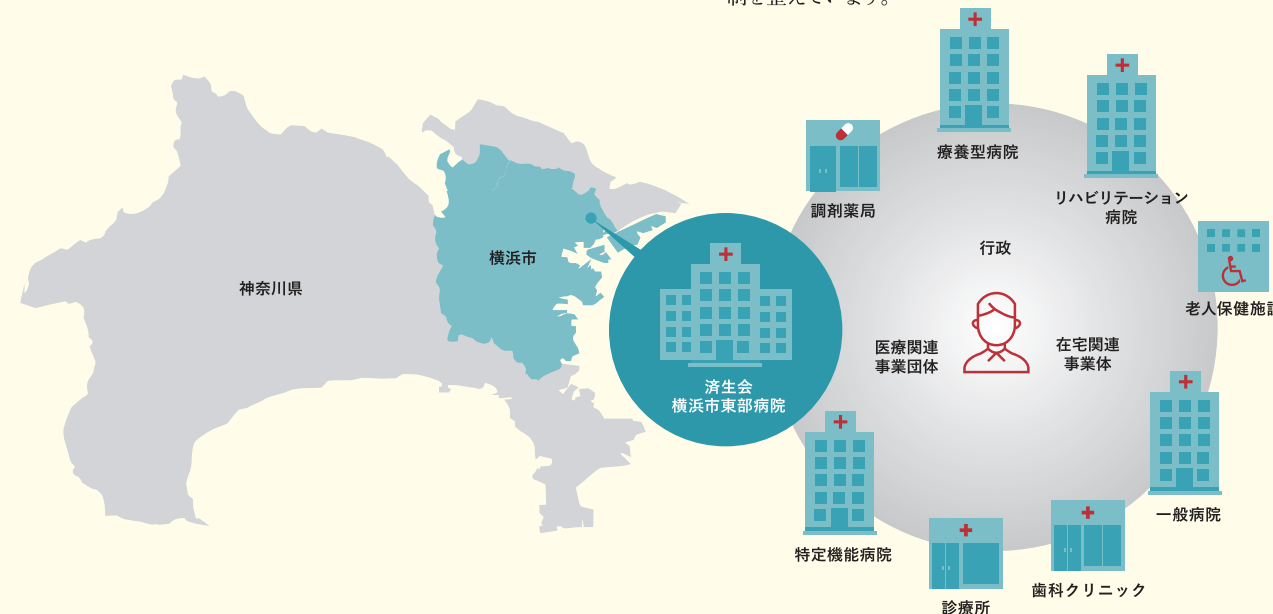
手術や放射線治療は当院での治療が必要ですが、高血圧や糖尿病などの併存疾患の治療や治療後の経過観察などは患者さんのご自宅近くで診療を受けられるよう医療機関と連携し、長く続くがん診療をなるべく負担なく行えるような体制を整えています。医療機関同士の情報交換を徹底的に行うため地域連携パスなどを使用し、患者さん・病院間での情報共有にも努めています。

地域がん診療連携拠点病院

厚生労働省の指定する「地域がん診療連携拠点病院」として、専門的ながん医療の提供、地域の他の医療機関との連携、がん患者さんに対する相談支援、情報提供などを行っています。

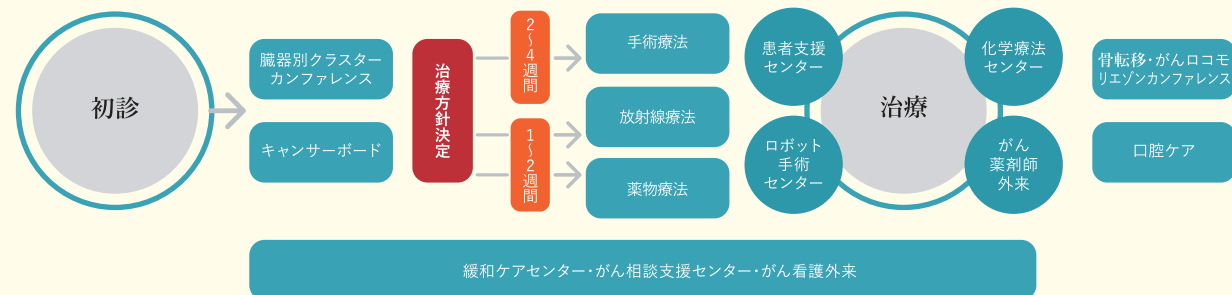
24時間対応可能

24時間・365日いつでも急な病状の変化に対応できる救急医療体制を整えています。



東部がんセンターの治療の流れ

がんと分かってから治療を受けて退院するまで、多くの専門職が関わり、患者さんをしっかりフォローいたします。



社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL
医療 密着 財団 済生会 横浜市 東部 病院

東部がんセンター

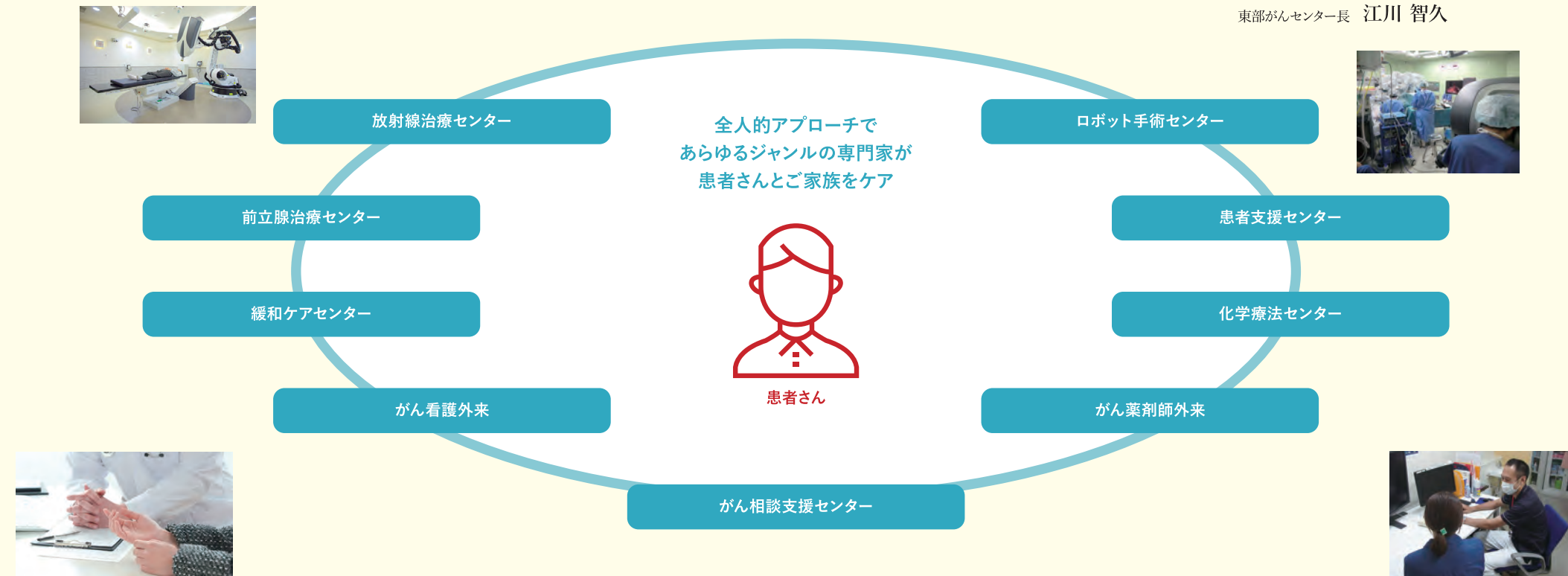
患者ではなく、人としてみる。
そんながん治療を提供したい。

Our Advantage

専門スタッフ・専門チームが、患者さんにご家族をケアします

東部がんセンターコンセプト

今や2人に1人はがんになり、3人に1人はがんで亡くなる時代です。
がんの患者さんは手術や放射線治療、抗がん剤治療など高度な治療が必要であり、就労や子育てなどの生活の問題も解決しなくてはなりません。
それらを行うには多くの高度な機能があり、たくさんのスタッフを持った病院である必要があります。国では、そのような病院を「がん診療連携拠点病院」として指定しています。
当院は、2014年8月に国から「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。
東部がんセンターでは、患者さんが最適ながん診療を受けられるように組織されています。



がん看護外来

診療科の依頼を受け、がん告知や治療説明の際にがん分野の専門・認定看護師が同席しています。がん告知（初発・再発）を受ける患者さんとそのご家族の苦痛を軽減できるよう、不安や心配事をお聞きし、患者さん・ご家族が納得した上で意思決定ができるようサポートしています。治療や療養の調整をお手伝いしながら、生活の質を高め、維持できるよう支援します。

緩和ケアセンター

緩和ケアは終末期だけのものではなく、がんと診断されたときや治療中、さらには治療が困難となった時期に至るまで、全ての段階において、がんによって生じる「身体や心の痛み」を和らげることです。
緩和ケアチームは主治医と協力しながら、患者さんが前向きに治療を受けられるよう、そして、日々穏やかに暮らしていけるよう、その人らしさを大切にして、患者さんに合わせた支援をしています。

がん薬剤師外来

がん薬剤師外来では、がん治療に特化した薬剤師が、患者さんの治療継続を目指し、抗がん剤治療のサポートを行います。
治療前には抗がん剤の必要性に加え、治療計画、副作用対策、日常の過ごし方や費用等について説明し、また、治療中の吐き気や皮膚障害等の副作用には効果的な対策を提案して、医師や看護師との協力のもと一人ひとりに安全かつ最適な治療を提供します。



東部がんセンター長 江川 智久



患者さんへの手厚いケア

「がんの根治」を第一目標に、「痛みが少ない」「入院日数が短い」「治療後の回復が早い」など患者さんのQOL(生活の質)を重視する取り組みも積極的に行っています。
患者さんに最適な治療方法の選定、最先端手術、そして、近年重要度が高まってきている術前・術中・術後といった周術期のトータルケアを提供するために、診療科やセンターを横断した院内連携を積極的に図っています。

がん相談支援センター

がん分野の専門・認定看護師を含む相談員が患者さんやご家族の様々な相談に対応しています。
●自分のがんや治療について知りたい
●セカンドオピニオンを受けたい
●小さな子どもに病気のことをどのように伝えたらよいのか
●アピアランスケアについて ●仕事と治療の両立について
●療養環境調整について ●治療費について など
『夜間電話がん相談』(完全予約制)も行っています。

患者支援センター



患者支援センター(TOPS)には、入院準備外来があり、患者さんに手術や化学療法に関する情報提供を行います。術前リハビリテーション、栄養指導、休養指導、口腔管理指導も個別に実施します。また、術後疼痛管理チームがあり、痛くない・気持ち悪くない手術後の環境を提供します。麻酔科医、看護師をはじめ薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士など多職種により患者さんの支援を実施しています。

Our Approaches 最善の治療方法を

東部がんセンターでは「標準治療」を行っています。
標準治療とは、平均的な治療法のことではなく、その時点で考えられる最も効果がある治療法をいいます。
がんの主な治療法として、外科療法(手術)、放射線治療、薬物療法(化学療法)があり、これらを単独もしくは組み合わせてどのように治療するかは、患者さんの状態やステージによって決まります。



外科療法(手術)

外科療法は、がん診療の中核をなすものです。
●どういう患者さんに手術をするべきか?
●手術のリスクはどうか?
●より低侵襲な方法で可能ではないか?
などを検討する必要があります。当院ではあらゆるがん領域の腹腔鏡手術、ロボット支援手術などの低侵襲手術に注力しています。



放射線治療

高精度放射線治療装置サイバーナイフを用いた体幹部定位照射を積極的に行っています。肺がん、肝細胞がん、前立腺がんに対する体幹部定位照射の症例数は神奈川県内有数です。
2019年からは最新型リニアックも稼働を始めました。副作用の少ない治療を心がけています。



薬物療法(化学療法)

5大がんをはじめ、頭頸部、皮膚がんなどにも対応し、放射線治療との併用も行っています。
がん薬物療法に特化した専門的知識を持つ薬剤師・看護師が患者さんの状態をチェックし、必要時には多職種と連携しながら、適切なケアとアドバイスを行っています。

身体への負担の少ない最先端医療を

エビデンス(科学的根拠)に基づく標準的な治療を基本に、患者さん一人ひとりに合ったオーダーメイドの治療を提供することで、ご本人はもちろん、ご家族にも安心・満足していただけるよう心がけております。
そのためにも、常に「一歩先の医療」をめざし、手術支援ロボット「ダヴィンチ」やロボット型放射線装置「サイバーナイフ」など、最先端の治療法も導入しております。さらには、全世界で取り組まれている患者さんを中心とした周術期管理プログラムである「術後回復能力強化(enhanced recovery after surgery:ERAS®)プログラム」の概念を取り入れ、患者満足度を重視したプロトコルを実践しています。

2020年悪性腫瘍年間手術件数
1,306 件
(地域がん診療連携拠点病院基準: 400件以上/年)

2020年放射線療法年間患者延べ数
668 人
(地域がん診療連携拠点病院基準: 200件以上/年)

2020年薬物療法年間患者延べ数
1,118 人
(地域がん診療連携拠点病院基準: 1,000件以上/年)